

群馬県太田市九合地区の地域特性を子どもたちに伝える
「九合村物語」の制作と読み語りの実践

田中麻里・深谷晃世・大里絵里子・星野雅範

群馬大学教育実践研究 別刷

第32号 81～90頁 2015

群馬大学教育学部 附属学校教育臨床総合センター

群馬県太田市九合地区の地域特性を子どもたちに伝える 「九合村物語」の制作と読み語りの実践

田中麻里¹⁾・深谷晃世²⁾・大里絵里子³⁾・星野雅範⁴⁾

- 1) 群馬大学教育学部
- 2) 掛川市立第二小学校
- 3) 筑西市立大村小学校
- 4) 農業・郷土研究

Making story book 'Kuaimura-monogatari' to learn regional history,
culture and story-telling activities at Ota, Gunma

Mari TANAKA ¹⁾, Akiyo FUKAYA ²⁾, Eriko OSATO ³⁾, Masanori HOSHINO ⁴⁾

- 1) Department of Home Economics, Faculty of Education, Gunma University
- 2) Kakegawa daini Elementary School
- 3) Tikusei Omura Elementray School
- 4) Farmer/researcher of regional culture

キーワード：住教育、地域学習、物語の制作、読み語り、太田九合地区、群馬

Keywords : Living environment education, Learning regional characteristics, Making indigenous story book,
Story-telling, Ota Kuai area, Gunma

(2014年10月31日受理)

1 はじめに

地域には豊かな歴史や文化があり、それらについて子どもたちが学び、再認識する活動については、さまざまな取り組みが行われている。

群馬県太田市九合地区では、地域に伝わるさまざまな歴史について、子どもたちにも馴染みやすく分かりやすい、語りの形式にする「九合村物語」の制作を九合村物語編集委員会のリーダーの星野雅範が中心となって構想した。「九合村物語」は子どもたちにとって地域に関心を持ち、自分の町を好きになるきっかけとなるものと考え、研究室で制作に関わることにした。

本研究は「九合村物語」を制作し、これらを用いて小学生に読み語りを行うことで、地域への関心の変化や教

材としての可能性について考察することを目的とする。

「九合村物語」の作成にあたり、九合地区の歴史について高齢者の方に話を聞く大正インタビューを行った。インタビューをもとに、地区ごとに7つの宝を選定し、宝について調べた。これらをもとに物語と宝の地図を作成した。そして、地区内の3つの小学校で九合村物語の読み語りを行った。

2 九合村物語

2.1 九合村物語とは

群馬県太田市九合地区の中には新井町、飯田町、新島町、小舞木町、内ヶ島町、飯塚町、西矢島町、東矢島町、東別所町の9つの町がある。これら9つの町が

合併して1889年に誕生したのが九合村である。1940年に太田町（現太田市）と合併した（図1）。

九合村物語とは、九合地区にある歴史を、子どもたちに伝え、地域に関心を持つことを目的とした物語である。九合地区には、歴史を感じることでできる宝とも呼ぶべきものがある。それらを子どもたちに語り伝えることにより、さまざまな歴史の上に今の生活が成り立っているということに気付いてほしいという願いが「九合村物語」には込められている。

2.2 大正インタビューと7つの宝

九合村物語の編集にあたり、星野が中心となって九合地区の11地区（9大字+内ヶ島町目塚+新井町内の南新井町）において、大正インタビューを計画した。

大正インタビューとは、大正時代生まれの方を中心に九合の多様な歴史について話を聞いたものである。大正生まれの方がいない町では昭和初期生まれの方をお願いしている。内容は主に地理、祭り、神社、お寺、遊び、戦争、養蚕についてで、どの地区でも同じ項目について話を聞いている。

ここでは、一例として東別所地区の大正インタ

ビューをとりあげる。

大正インタビュー：東別所編

語り手：Oさん（大正13年生：新田出身）、Mさん（昭和4年生：新田出身）、MKさん（昭和10年生：本郷出身）

場所：東別所集会所

日時：平成24年6月3日13時半～15時

表1は大正インタビューから得た情報についてまとめたものである。東別所町での大正インタビューをもとに、東別所町の7つの宝を選んだ。



図1 群馬県太田市九合地区

表1 大正インタビューの内容（東別所）

1	神社裏の古墳	古墳は長良神社の裏にあり、神社の社殿は古墳を削る形で建てられている。古墳は神社ができるより前からあるもので、後に神社を立てるとき、古墳をシンボルのようにみなして、いい場所だから神社を建てることにしたと考えられる。古墳の手前に神社を作るという例は各地で見られ、新井町もその1つであるが、今は道で削られて古墳は残っていない。その意味でも今、東別所に古墳が残っていることは貴重なことである。現在、墳丘上には色々な小さな石の神様が集められて並んでいる。これらはかつて、東別所地区の辻や道端にまつられていたものだが、時代の流れと共にここに集められたものである。今では知る人は少なくなったが、その一つ一つが歴史をもち、人々の折りを受けとめてきたものである。
2	奇祭、獅子頭回し	太田市西部の世良田地区の八坂神社から獅子頭を借りてきて、獅子頭が入った神輿を担いで町内の家々を一軒一軒まわっていくというめずらしい祭り。神輿は、獅子頭が入った木箱が二本の担ぎ棒からぶら下がった形になっており、一般的な神輿とは違うめずらしいものである。家に神輿が来ると、その獅子頭の下をくぐるとご利益があるという、みんなありがたがってくぐった。そして担ぎ手をごちそうや酒でもてなした。現在は4月の第三日曜日に車で借りに行って、そのまま獅子頭を降ろさず車で町内をまわり各家に立ち寄ることはない。しかし、今でも八坂神社からのお礼は町内の人に配られている。
3	往還道路	往還道路というのは東別所町の幹線道路で、町内西部を南下し、お寺の南西で90度右折して東へ向かう道で、この道に沿って家々が並んでいた。お寺や神社への参道もこの道に接続する重要な道だった。現在東別所町は三つの地域に分かれているが、往還道路がその境界となっている。昔はこの道くらいしか広い道がなかった。昔は車も通らないので、この往還道路のちょっとと広がっているところなどは子どもの遊び場だった。たくさん道の道が新しく出来る中で、この道筋は今でもそのまま残っている。
4	八木節祭と道具一式	東別所の国貞寺で行われる八木節祭で、かつては近在でも有名な祭りだった。東別所以外からも八木節の喉自慢、腕自慢、また見物客が集まった。お寺の境内は人で埋まり、露天も並び、とても賑やかだった。境内に木と竹を組んで櫓（やぐら）を建て、演奏者はこの上で八木節を行った。ただ演技を見せ合うのではなく、八木節大会であり、審査員が審査をして優秀者を選んだ。その審査の仕方が独特で、審査員たちはお寺の本堂に座っているが、櫓の上と本堂が滑車でつながっている。そして、演奏者の情報などが滑車をつたって上から審査員席までスッと降りてくる仕組みになっている。機械のない時代の工夫である。またこの八木節祭りは、青年団という東別所地区の若者達が組織する団体によって主催されていた。今は地域社会において、若者の影は薄いのが、当時は地域を盛り上げるのに大切な役割を担っていた。祭り自体は戦後何年かして終わってしまったが、この櫓を組んだ骨組み一式が今でもお寺の床下に残っている。
5	太田飛行場	昭和初期、太田には中島飛行機という軍用機を製造する飛行機会社があった。この会社の働き手は全国から集まり、太田の町は活気付き人口も増えた。その後できた太田工場では陸軍の飛行機、小泉工場では海軍の飛行機をつくった。この二つの工場の間、生産された飛行機を飛ばすために造られたのが太田飛行場である。東別所町の面積の約3分の1に及ぶ土地が飛行場として使用され、格納庫は東別所町の住宅地に遠くないところにあった。その後昭和20年4月4日未明の空襲において、飛行場の格納庫がB29に狙われた。幸いにも住宅地には落ちなかったが、東別所区域にも爆弾が落とされた。この飛行場は、昭和44年まで米軍の接収状態が続き、群馬県で一番最後まで返還されなかった施設であった。現在は富士重工小泉工場になっている。
6	掩体壕 (えんたいごう)	戦争中、飛行機を隠しておくために掩体壕が造られた。太田飛行場から東別所の住宅地まで土手が築かれ、その中に米軍に見つからないように飛行機を並べ、機体の上に木の枝などを乗せて隠してあった。この掩体壕は、東別所町内の東から西まで、家だけは避けて、畑の部分をつぶして作られた。農家の人たちにとって大切な農地をつぶして作られ、村中がめっちゃくちゃになっていたという。現在その痕跡は見られないが、戦争と関係する大変大きな被害だった。
7	アメリカ村の区画	航空写真などで見ると一目瞭然だが、東別所北部に現在、半円型、放射状に区画整理された住宅地がある。これも戦争と関係している、ひとつの戦争遺跡である。この土地には戦前に中島飛行機のゴルフ場が造られた。しかし戦後、進駐軍が太田に入ってきて、ゴルフ場をならして、進駐軍上級職の住宅地にした。当時町民はガチャコンの井戸水を使って、トイレは汲み取り式だったが、米軍の家には水道や浄化槽があり、驚いたという。各家で日本人のメイド二人、ボーイ一人を雇い、日本人とアメリカ人の交流もあった。カタコト英語で話しかけるとガムやチョコレートをくれることもあり、日本人としては仕事になり、英語も覚えられてよかったという。十年弱で進駐軍は去り、その後その土地は三洋電機が社員などに分譲して売って、今に至っている。

2. 3 九合村物語の内容

大正インタビューをもとに、地区ごとに7つの宝を定めた。具体的には、神社、お寺、古墳、地形、道路、戦争関係など、歴史的で公的なもので、目に付きやすいものである(表2)。

九合村物語は、7つの宝について学ぶ内容である。物語は、想像を膨らまし、実際にその秘密を見に行つてほしいという思いから、絵のない語り形式になっている。図2は九合村物語の一部である。

3 読み語りの実践と内容理解の分析

3. 1 読み語りの実践

3つの小学校で、九合村物語の読み語りをを行った(表3)。実施目的は、教員に活用方法のイメージを持ってもらうこと、学校現場で活用できる教材にするための意見をもらうことである。

語り手は星野と当時群馬大学学生の深谷、大里で行った。読み語りをを行う際、クイズを行う、宝に関係

表2 九合地区の7つの宝

新井町*	飯田町	新島町	小舞木町	内ヶ島町	内ヶ島町目録
八幡宮の三つ葉葵の紋 獅子舞 十輪寺の地藏堂 夜泣き様 天神様 御庵稲荷古墳 川の曲がり	雷電石 旧熊谷県道の道筋 崖(オカゲ) 神輿 獅子頭と獅子回し お釈迦様像と花祭り 中央小学校	専用道路 九合最大の空襲被害 新島銀座と小泉県道 観音堂と大吉庵 江文神社の松 一配森稲荷 追分地藏	二本の古い道 小舞木の地藏様 賀茂神社 一切経様 梵鐘 金比羅様 高射砲陣地	二つの伊勢神社の秘密 弓引き 稲荷様と八幡様 百万遍念仏 孫左衛門の観音堂 県道の名残 蓮光寺の開文学校碑跡	天神山古墳 女体山古墳 天神様 天神山古墳A陪塚 高射砲陣地 幻の浄土寺 旧館林県道
飯塚町*	西矢島町	東矢島町	東別所町*	南新井町	
国宝武人墳輪 九合村役場跡 正泉寺の天井絵 飯塚の幹線道路 飯塚の三つの池 ナカクルワ墓地の古椿 九合小学校	赤城神社のムカデ伝説 大杉の切り株 喧嘩神輿 モトヤンキ 紫雲塚古墳 三和工場 安楽寺の九合小跡碑	獅子舞 万灯 元寺 宝篋印塔 抜け出し地藏 南矢島町と末広町 旭小学校	神社裏の古墳 奇祭、獅子頭回し 往還道路 八木節祭りの道具一式 太田飛行場 掩体壕(えんたいごう) アメリカ村の区画	南新井町という名前 三軒家 稲塚山 緑町と住吉町 市営住宅と県営住宅の歴史 富士重工矢島工場 九合最大の焼夷弾攻撃	

⑦九合小学校
アーサ:えー九合小が宝ってどういうこと?
チュート:うれしい!なんで九合小が宝なのか早く知りたい!!
くーたん:九合小は、明治22年(1889)に九つの地区が合わさって九合村ができたときに、誕生した小学校なんだ。昭和52年に中央小、昭和59年に旭小ができる前は、九合の子はみんな九合小に通っていたんだよ。
アーサ:へえ。じゃあすぐたくさんのお友達がいんだろうね。
くーたん:校舎は始め木造だったんだけど、鉄筋コンクリートになったんだ。昭和の初めまではみんな着物に下駄で登校していたし、この九合小は戦争という時期もくぐりぬけている小学校なんだ。校舎内に爆弾が落とされ、校舎につきかけた火を先生たちが必死に消し止めたということもあったんだよ。
アーサ:すごーい。そんなに歴史のある小学校にいるなんてなんだか誇らしいね。
チュート:確か、2013年で創立140周年だったよね?
アーサ:そっか!100年以上も建ってる学校なんてすごいや。
くーたん:2人共、校庭にあるセンダンの木は知ってるよね。
チュート:もちろん!くーたんとセンダンさんに会った場所だもん。
くーたん:100年経って小学校の様子は大きく変わったけど、校庭に植えられているセンダンの木は、昔からずっとそのまま。いつからあるのか明治時代生まれの人でも分からないといっていたと記録にあるけど、たぶん九合小ができた頃からずっと子ども達を見守ってきたはずだよ。
 九合小の校歌にも「古い歴史の梅檀(せんだん)は 祖先の訓(おしえ)そのままにかおるよ 九合小学校～」と歌われているよね。
アーサ:そうだね!
チュート:九合カルタにも載ってるよ!「せんだんの 歴史は古し 九合小」。
アーサ:本当だ!センダンの木は九合のシンボルツリーって見えるね。

*センダンさん:九合小の校庭にあるシンボルツリー、くーたん:九合をよく知る妖精、アーサとチュート:九合小に通う小学生

図2 「九合村物語」一部(九合小学校のおはなし)

表3 各小学校の読み語り実践の概要

小学校	日程	対象	時間	人数	内容
中央小	2012年11月17日(土)	低学年・高学年	45分	33人・30人	新井町の宝
旭小	2012年12月18日(火)	4年生	45分	85人	東別所町の宝
九合小	2013年1月7日(月)	4年生	45分	93人	飯塚町の宝

する写真を提示するなどして理解を深められるようにした。

読み語り後には、語りの感想を児童と教員にそれぞれに回答してもらった。アンケートをもとに各小学校での実施後、読み語りの改善を行った。初回の中央小の後、物語の中で誰の言葉かわかるようにパープサーを用意することにした。また児童の集中力が切れるのを防ぐため、読み語り後に行っていたクイズを、物語の間にはさんで2回に分けて行うようにした。第2回旭小の後には、宝の絵を提示することとし、配布した宝の地図と見比べられるよう、わかりやすくなるように工夫した。

3. 2 中央小学校での読み語り（第1回）

中央小学校では、2012年11月17日（土）に土曜スクールの時間を借りて、1～6年生63人を対象に低学年（33人）と高学年（30人）に分けて読み語りを行った。中央小学校の学区内で星野が在住する新井町の7つの宝の物語を選んだ（表4）。

45分間の読み語り実践は、登場する際に新井の獅子舞の獅子頭を持って、星野が笛を吹きながら登場し、興味を引くような工夫をした。そして自己紹介、内容

の説明、読み語り、写真の提示、クイズ、アンケートの流れで行った。児童読み聞かせの途中には獅子舞を披露したり、場面が切り替わるところでメガネをかけたたりするなど、児童が飽きないように工夫した（図3）。

宝の地図は児童と教員全員に1枚ずつ配布したが、読み語りに集中してもらうため伏せて聞いてもらった。新井町の地図は読み語りでは使用していないが、宝の地図と対応している（図4、図5）。



* 左：くーたん（妖精）、中央：アーサ（小学生）、右：チュート（小学生）

図3 中央小での読み語り（第1回）

表4 新井町の7つの宝

宝	宝の説明	分類
①八幡宮の三つ葉葵の紋	八幡宮の本殿に、江戸時代に徳川家から送られた三つ葉葵の家紋が入っている。これは徳川綱吉に崇敬を受けたことを示している。また八幡宮は150年以上前からある歴史のあるものである。	信仰
②獅子舞	約500年前に京都から伝わったもので、長い間新井町で親しまれてきた、新井町オリジナルの祭りである。太田市指定文化財にも指定されている。	祭
③十輪寺の地蔵堂	江戸時代に建てられた地蔵堂には、秘仏がいる。戦争時には学校の代わりに授業を行うこともあった。かつてはここで地蔵様の祭りもあり、みんな楽しみにしていた。	信仰 祭 戦争
④夜泣き様	新井町に残る唯一の道祖神。「夜泣き地蔵」「夜泣きの神様」などと呼ばれていて、夜泣きをして眠らない赤ん坊を連れて行くと夜泣きが止むと言われていた。	信仰
⑤天神様	天神様とは学問の神様を祀るところで、かつて新井町にもあった。現在はなくなってしまったが、天神様があった大切な場所ということから、後にできた公園には「天神公園」という名前が付けられた。	信仰
⑥御庵稲荷古墳	民家の庭に現在も古墳が残っている。かつて人間とキツネが交流していたという不思議な言い伝えがある。また戦争の空襲の時には、防空壕として人々を守った。	信仰 戦争
⑦川の曲がり	明治時代から残る水路で、区画整理後もそのまま残されている。この川に沿った道は参道につながる重要な道であった。戦争時にはこの川に沿って爆弾が落とされ、九合小の児童も亡くなっている。	地理 戦争

3. 3 旭小学校での読み語り（第2回）

旭小学校では2012年12月18日（火）に、4年生85人を対象に読み語りを行った（図6）。旭小学校の学区の中では東矢鳥町に住む児童数が最も多いが、次に児童数の多い東別所町の物語の読み語りを行った（表5、図7）。

読み語りは45分の授業の中で行った。中央小学校で

45分間聞いているだけでは児童の集中力が持たないという反省点があったため、旭小学校では子どもたちが飽きてしまわないように物語を2つに分け、間にクイズをはさんで行った。

また、視覚的な資料で理解を深めるため、登場人物の絵を提示しながら物語を語り、宝の地図を見せる、補足の写真を提示する工夫を組み込んだ。

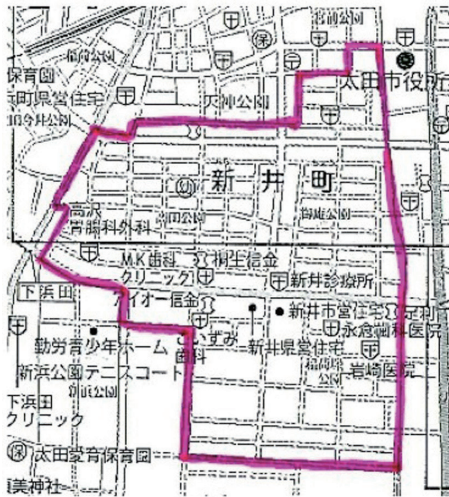


図4 新井町



*中央:アーサ(小学生)、右:くーたん(妖精)

図6 旭小での読み語り（第2回）

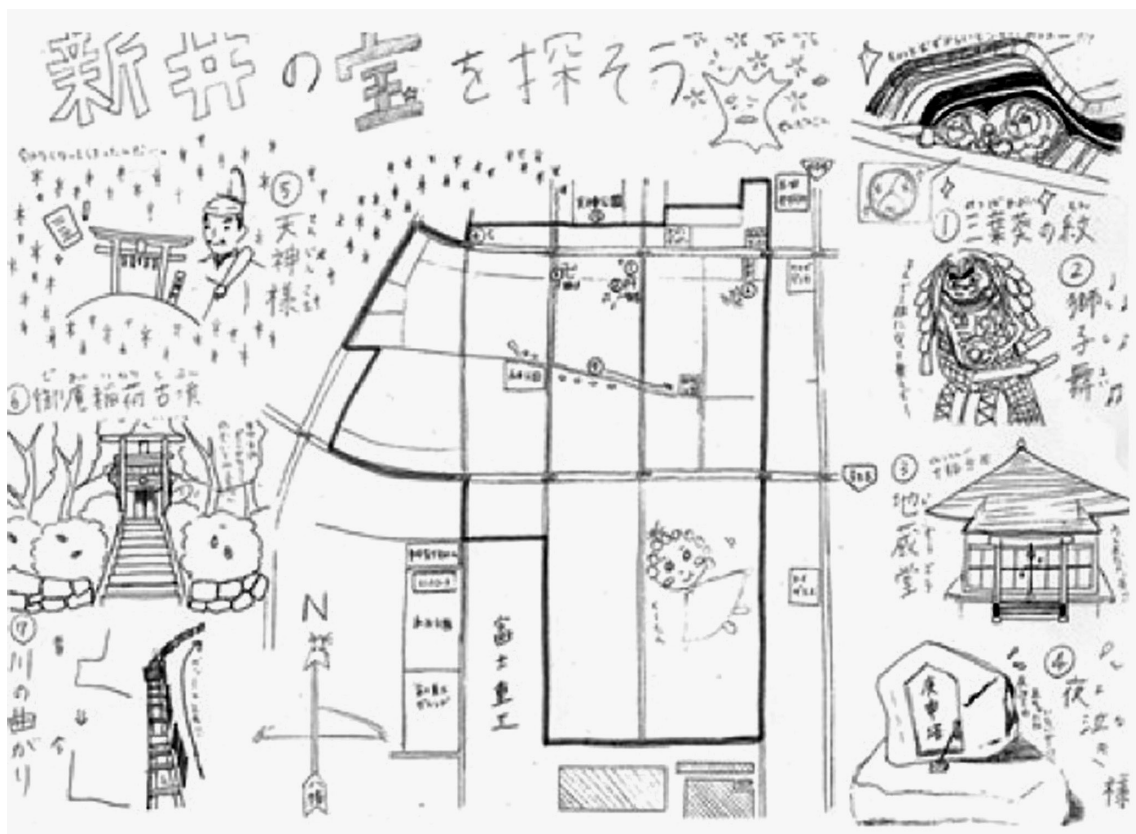


図5 新井町の宝の地図

表5 東別所町の7つの宝

宝	宝の説明	分類
①神社裏の古墳	神社は、古墳があるいい場所だからという理由でこの場所に建てられた。古墳上には村中から集められた道祖神が並んでいる。	信仰
②奇祭、獅子頭回し	神輿の下に獅子頭の入った木箱をぶら下げて町内の家を一軒一軒まわる、とてもめずらしい祭り。その獅子頭をくぐると御利益があるとされていた。	祭
③往還道路	東別所の昔の中心道路で、100年以上前からある道。参道に続く重要な道で、昔はこの道くらいしか広い道はなかった。	地理
④八木節祭と道具一式	国貞寺の有名な八木節祭では、櫓を組んで八木節大会が行われた。大変にぎわい、多くの人がこの祭りを楽しみにしていた。その櫓の骨組みが今でも国貞寺の縁の下に残っている。	祭
⑤太田飛行場	東別所町の面積の3分の1が飛行場だった。戦争のときには飛行場の格納庫が狙われ、町内にたくさんの爆弾が落とされた。	戦争
⑥掩体壕 <small>えんたいごう</small>	掩体壕とは飛行機を隠しておくための場所であり、大切な農地をつぶして作られた。戦争の時代の、爆弾と同じくらいの大きな被害といえる。	戦争
⑦アメリカ村の区画	東別所北部にある半円型、放射状に区画整理された住宅地で、戦後米軍が住んでいた土地。日本人とアメリカ人との交流もあった場所。	地理 戦争

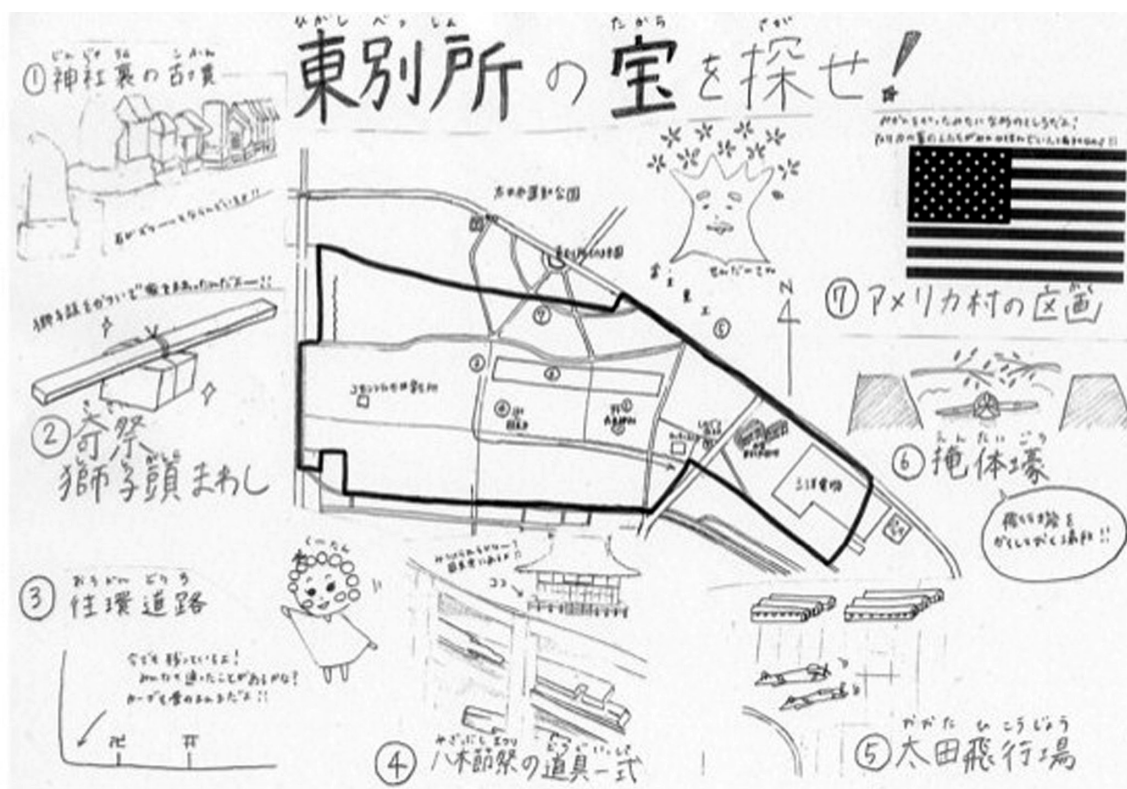


図7 東別所の宝の地図

表6 飯塚町の7つの宝

宝	宝の説明	分類
①国宝武人埴輪	今はないマツバラの神社跡を崩したときに出土した武人埴輪で、日本で唯一国宝になっている埴輪である。	信仰
②九合村役場跡	昭和15年に太田町と合併するまで、九合村の役場だった場所で、当時は村中の人が集まっていた。九合村の人たちにとって思い出深い場所。	思い
③正泉寺の天井絵	約200年前に飯塚町内に住む吉田平蔵が正泉寺に送ったもの。70数枚あり、戦争でほとんどが割れてしまっているが、今も大切に保管されている。	信仰 戦争
④幹線道路	明治時代からある道で、かつて飯塚町の中心的な道路だった。九合小学校に通う子どもたちがみんな通った、思い出深い道。	地理
⑤飯塚の三つの池	今はない「オオダネ」、「コダネ」、「マツボ」の三つの池。花火の筒が埋まっていたり、穴が空いていたり、不思議な池。昔の人にとって大切な池だった。	地理
⑥ナカクルワ墓地の古椿	樹齢何百年という大きな椿の木。お墓にお参りに来る人がいつも見て癒されていたという、みんなに愛されている椿の木。	信仰
⑦九合小学校	明治22年に九合村ができたときにできた小学校。九合のシンボルツリーであるセンダンの木もあり、九合の子どもたちを見守り続けている。	学校 戦争



図8 飯塚町の宝の地図

3. 4 九合小学校での読み語り（第3回）

九合小学校では2013年1月7日（月）に、4年生93人を対象に読み語りを行った。児童数が最も多く九合小学校もある飯塚町の物語の読み語りを行った（表6）。

読み聞かせは45分の授業の中で行った。第2回旭小と同様に、子どもが飽きてしまわないように物語を2つに分けてあいだにクイズをはさんで進化した。また、登場人物の絵を提示するだけでなく、宝の絵や補足の写真を見せながら語るようにした。

旭小学校で行った際、宝の絵や写真があった方が子どもは理解しやすいという指摘を受けたため、九合小学校では宝の絵を提示し、配布した宝の地図（図8）と合わせてみられるようにした。

3. 5 アンケートの結果と分析

（1）児童用アンケートの結果と分析

児童に、7つの宝について宝だと思ったかどうか、またそう考えた理由を回答してもらった（表7、8）。

3校全ての中で「宝だと思う」と回答する割合が最も高かったものは、国宝武人埴輪である。授業でも学習をし、さらに校内に埴輪が飾られているため、児童の認識が高かったことが考えられる。一方「宝だと思わない」と回答する割合が高かったものは、幹線道路である。道路は宝として認識されにくいことがわかる。

中央小ではすべての宝について「宝だと思う」割合が他の2校よりも高かった。これはほとんどの宝が現存していて、さらに宝と認識されにくい道路がないためと考えられる。また「初めて知った」、「いい話が聞

表7 児童用アンケートの質問項目

- | |
|--------------------------------|
| 1. どこの町に住んでいるか |
| 2. 住んでいる町の好きな場所、よく行く場所はどこか |
| 3. 物語の7つの宝で宝と思えるものはどれか、その理由は何か |
| 4. 宝の地図はどうか、その理由は何か |
| 5. 物語に対する意見（自由記述） |

表8 児童用アンケートの集計

	宝	宝だと思う	宝だと思わない	現存	戦争
中央小学校	①八幡宮の三つ葉葵の紋	28(93%)	2(7%)	○	
	②獅子舞	27(90%)	3(10%)	○	
	③十輪寺の地藏堂	25(83%)	5(17%)	○	
	④夜泣き様	26(87%)	4(13%)	○	
	⑤天神様	25(83%)	5(17%)		
	⑥御庵稲荷古墳	25(83%)	5(17%)	○	○
	⑦川の曲がり	26(87%)	4(13%)	○	○
旭小学校	①神社裏の古墳	73(85%)	11(13%)	○	
	②奇祭、獅子頭回し	77(90%)	7(8%)	○	
	③往還道路	63(73%)	15(17%)	○	
	④八木節祭と道具一式	66(77%)	10(12%)	○	
	⑤太田飛行場	59(69%)	17(20%)		○
	⑥掩体壕(えんたいごう)	52(60%)	23(27%)		○
	⑦アメリカ村の区画	54(63%)	20(23%)	○	○
九合小学校	①国宝武人埴輪	88(95%)	5(5%)	○	
	②九合村役場跡	60(65%)	30(32%)		
	③正泉寺の天井絵	76(82%)	15(16%)	○	○
	④幹線道路	45(48%)	45(48%)	○	
	⑤飯塚の三つの池	70(75%)	21(23%)		
	⑥ナカクルワ墓地の古椿	69(74%)	21(23%)	○	
	⑦九合小学校	86(92%)	6(6%)	○	○

けた」などの理由から、物語を聞いたことにより地域のことを知るきっかけとなり、興味を持ったと考えられる。

旭小の特徴は、戦争に関係のある太田飛行場(20%)、^{えんたいごう}掩体壕(27%)、アメリカ村の区画(23%)を「宝だと思わない」とする児童が多いことである。「宝だと思わない」にかかわらず回答した理由で「戦争」が多く見られた。読み語りの際、戦争の話を中心に聞く児童の様子からも、「宝」という認識は難しいものの、多くの児童が戦争に関心があることがわかった。

九合小では、国宝武人埴輪(95%)や正泉寺の天井絵(82%)、児童にとって最も身近な九合小学校(90%)を「宝だと思ふ」割合が高い。昔から大切にされてきたもの、身近なものは宝だと認識しやすいことがわかる。

「宝だと思ふ」とする理由に「昔から残るもの」という回答が多く見られた。往還道路を「宝だと思ふ」とする理由では、「昔の広い道路はどういうものか見てみたい」という回答があった。また、飯塚の三つの池では「過去に戻って池を見に行きたくなった」という回答も見られた。これらの回答から、九合村物語を聞いたことにより九合地区の昔の様子について興味を持ったことがわかる。

他地域の物語も聞きたいという意見や、宝の場所へ行ってみたいなどの意見、授業後実際に宝探しに行ったという意見もあった。そのことから、今後さらに地域への関心を深めていくきっかけにもなると考えられる。

(2) 教師用アンケートの結果と分析

中央小で6名、旭小で3名、九合小で2名の合計11名の教員の回答を得た。

宝探しに行きたい教員は中央小で6名中4名、旭小で3名中2名、九合小で2名中2名であった。

九合村物語を授業で使いたい教員は旭小と九合小の5名中4名と、九合村物語を授業で活用することに対して積極的な回答が多くみられる。「地域の歴史にふれることは大切である」(中央小)、「地域の勉強をするのでそれに関連させて行くと良い」(九合小)という意見からも、九合村物語を教材として使える可能性は高いと考えられる。

また「地域学習をするにあたってとても参考になった」(中央小)という意見から、学校教育では地域学習の資料を必要としていることもわかった。

一方、九合村物語活用に積極的でない教員は、「時間の都合上難しい」(中央小、旭小)を理由としていた。

校長からは、他地域に住んでいる場合や数年で学校移動のある教員にとって、地域について深く教えることが難しい場合もあるという課題が挙げられた。

これらの解決策として、読み聞かせボランティアの方々や協力をして、授業外に実施することが考えられる。読み聞かせボランティアの方々には地域に住んでいて、さらに年度が変わっても活動を継続的に行う人も多い。そのため内容理解を深めることができる機会が充実していれば、九合村物語について知識を持って読み語りができると考えられる。

4 結論

九合村物語の読み語りを通して多くの児童が、今まで知らなかったことを学び取り、自分たちの住む地域やその歴史に関して興味を持つことがわかった。また、「行ってみたい」などの感想から、今後さらに地域への関心を深めていくきっかけにもなると考えられる。

実際に九合村物語の読み語り実践を教員に見てもらったところ、授業で使いたい、参考になるという回答があったことから、教材として使うことができると考えられる。また、学校で地域学習を行うことが難しい場合でも、読み聞かせボランティアの方に活用してもらうことで、地域への関心を深めていくことができると考えられる。

九合村物語を語るだけでなく、学校教育のなかで、さらに地域のなかでの活用法についても考え、学校等にも配布した。

また、戦争に関係のある話を熱心に聞く児童は多くみられたが宝とは思わないという回答も多かったことから、九合村物語を印刷する際には「7つの秘密」とすることとした。そして、2013年9月には太田市1%まちづくり事業として「九合村物語」が出版され地域に配布された(図9)。

出版を契機に地元の祭りの際に7つの秘密の話を星野が語る機会も設けられた。「九合村物語」を活用したスタンプラリーなども行われている(図10)。さらに、



上毛新聞2014.08.08

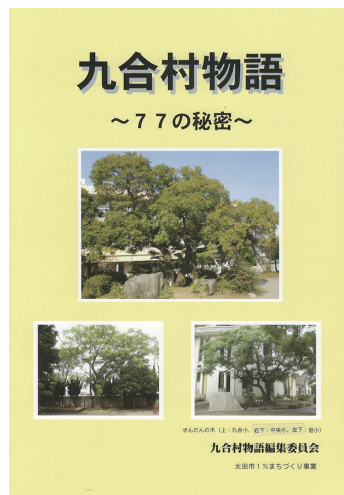


図9 九合村物語

図10 九合村物語を活用したスタンプラリー

地元の区長さんなどを通して語りや活動の依頼が来る事もあり、地域での活用が進んでいる。

謝辞

本研究を行うにあたって、九合村物語編集委員会のメンバーの方々に大変お世話になった。また、読み語りの実践においては太田市立中央小学校、旭小学校、九合小学校の校長先生をはじめとする先生方、児童の皆様方にご協力をいただき感謝いたします。

参考文献

星野雅範 (2008) 「ありがとう新井町見聞記」

田中麻里 (2012) 「地域について理解する郷土トランプの作成」 群馬大学教育実践研究 第29号、103-110頁

田中麻里、川島由梨江 (2013) 「地域 (群馬) を題材とする創作絵本を通じた住教育の可能性—民話をもとにした絵本を事例として—」 群馬大学教育学部紀要 芸術・技術・体育・生活科学編 第48巻、237-246頁

深谷晃世 (2013) 「地域の歴史を学習するための教材作成とその読み語り実践」 2012年度群馬大学教育学部家政専攻卒業論文

九合村物語編集委員会 (2013) 「九合村物語～77の秘密～」 太田市1%まちづくり事業として出版

田中麻里、田中克彦 (2014) 「小学校総合学習における郷土トランプの作成を組み込んだ地域学習の実践」 群馬大学教育実践研究 第31号、99-108頁

(たなか まり・ふかや あきよ・おおさと えりこ・ほしの まさのり)